# ぐんぱる

vol.117

## 公認から百年　次の世代へ継承

1・2面

日整　関東学術大会山梨

4
2023

3・4面 日整 Re:Bone

学術

自己研鑽を積み社会貢献へ

## 骨折・脱臼整復術　質の向上と平準化を図る

# 柔整の課題解決　導く「武器」に

日整 関東学術大会 山梨

3月19日、山梨県の富士吉田市民会館（富士山ホール）で第43回関東学術大会山梨大会が開催された（主催 公益社団法人日本柔道整復師会）。「伝統の継承」をテーマに、柔道整復術に絡んだ講義や、痛みに対するアプローチについて外部講師を招いた特別講演、さらには各県代表が行う論文発表では7名の会員が登壇し、研究成果を披露した。

### 次の百年に繋げる施策

柔道整復術公認から百年が経過。医療・介護・福祉・健康・養生の分野でどのように貢献して、次の世代に繋げていくか。日整の森川伸治学術教育部長は「学術教育部からのお知らせ（柔道整復師のアイデンティティ）」として講演。日整の進むべき道を歴史的・制度的に考察した。

森川学術教育部長

柔道整復師は応急手当といえど骨折・脱臼を整復可能な専門知識を持ち、技術倫理などを踏まえ認められた国家資格。これを前提に、柔道整復師の施術に対して療養費制度が適用されている。ただし、この制度は柔道整復師のためのものではない。「良質な施術を望まれる患者さんのため」だと森川部長は指摘する。

柔道整復術を望まれる国民の負託に応えるために、骨折・脱臼に関して最新の専門的知識と高度の整復固定技術を有する優れた柔道整復師を養成し、全国的に広く配置していくことは日整にとって喫緊の課題だ。

こうした課題を解決に導く上で、学術的考察は欠かすことのできない大きな柱となる。そのため研究立証を、柔道整復系大学の研究機関の協力を得ながら進めていくという。

また、骨折・脱臼整復術の質の向上と平準化だけではなく、運動器の痛みと機能回復訓練に関われる仕組み構築も視野に入れ、次世代の柔道整復師と業界のために更なる制度・教育改革にも着手していくとのことだ。

大室医師

## 改善しない疼痛にはメンタルケアも有効

「痛みとストレスの関係」と題して精神的な不調と身体症状の繋がりについて講演したのは産業医の大室正志先生。

冒頭、大室先生が指摘したのは、人を取り巻く環境の変化だ。人体は解剖学的には20万年前とほぼ変化してないが、社会生活は様変わりしており、デジタル機器の使用、仕事のストレスや人間関係など、現代人は常に緊張が続いている状態であるという。その影響により、胃腸の働きが悪くなり食欲が減退したり、頭痛や肩こりなどが発生する。痛みや不調が複数重なることで、自律神経失調症へと移行してしまうのだ。

こうした体の不調を改善していくには、「痛み」について熟知し、その要因を排除していくことが望ましい。一般的な痛みは約7割が発症してから3ヶ月以内で自然治癒するといわれている。それ以上続く痛みは、慢性疼痛と定義され、「通常の治療期間を超えて持続する痛み」として心理社会的要因(ストレスなど)にも関連する。慢性疼痛を持つ人の6割から8割は何らかの身体愁訴を抱えているというデータもある。

身体愁訴の要因は複雑に絡み合っているが、実は姿勢の悪さや歪みとの関連性は薄い。寧ろ運動不足、仕事の悩み、ワークライフコンフリクトなど環境における可変因子が原因であることが多いようである。

ここで今注目されているのが「痛覚変調性」という痛みの種類だ。体組織や神経に損傷がなくても痛みに敏感になったり、患部が治癒しているにもかかわらず脳が痛みを覚えてしまっている状態のことを指す。この痛覚変調性にはストレスが影響しているという。ネガティブな感情や警戒心があると脳に神経回路が構築され、痛みに過剰な反応を起こす。つまり不安や恐怖があると慢性化しやすいというのだ。慢性疼痛は睡眠障害や活動の制限をもたらし、抑鬱などのメンタル不調とも合併するということであるから、事態は非常に複雑だ。

そのため大室先生は、慢性疼痛の評価対策としてストレスなどの心理的側面を考慮することを提案。「なかなか改善しない疼痛には、認知行動療法などメンタルケアも有効です」。

その人が置かれている社会的地位や環境に目を向け、それを改善していくことの大切さ。講義内で一貫して提言してきた痛みに対するアプローチは、今後のスタンダードとなるだろう。

平井会員

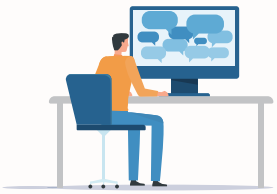
## 周囲と連携し適切に処置

研究論文では、群馬県代表として平井克弥会員が「スポーツ現場におけるケガの競技復帰へのテーピング」を発表。

平井会員によると、捻挫の強度によりテーピングのテンション・種類を使い分けることが肝要だという。特に現場で即復帰させる場合は各種の情報を処理し判断する。無理な復帰は目指さず、治療に専念させることも選択肢の一つに入れなければならない。現場では早期復帰が求められることも多く、周りと連携を図り、適切な処置を施す必要がある。「日々の臨床を大切にして患者に寄り添っていきたい」という平井会員の言葉に全てが詰まっている。

# 組織強化　会の仕組みを再考

## Re:Bone オンライン意見交換会



## 環境改善へ屈託のない意見を

公益社団法人日本柔道整復師会は３月４日、「Re:boneオンライン意見交換会」を開催。近年日整への入会者の減少に伴い、組織率は低下している。何が原因か。どう変えていけば良いのか。各都道府県の代表が意見を出し合った。

### 発信力を強化し、一般の認識不足を解消

会議内では様々な意見が飛び交った。中でも多く寄せられたのが「入会のメリットが分かりづらい」というものだ。物価上昇に伴い、社会インフラ料金を含め運営費も高騰しているため、安価な入会料である他団体に流れている感は否めない。そこで問題となるのは、「日整の魅力とは何か、他団体との優位性があるのか」というものだ。

広告を例に出せば、現状では日整入会者のみが広告規制・罰則を受けている状態で、他の団体は野放しとなっている。こうした問題の放置が入会へのデメリットとなり、日整、於いては業界全体に対する不信感へ繋がっているのではないか。これまでにも違法広告取り締まり強化を望む声もあったのだが、法的な問題や管轄の違いなどが重なり実施されてこなかった。そこで、「もし日整が違法広告に対して何らかの形で処置できれば、新規入会者が自動的に流れてくるのではないか」と期待を寄せる声も上がった。

### 入会することの絶対的必要性を付加

加えて、日整会員であることの絶対的必要性がないと感じている柔道整復師がいることも事実。これは日整に対する認識不足によるものも大きいのではないだろうか。協定によって日整が厚労省と交渉できる唯一の団体であることが理解されていないのが現状だ。若い柔道整復師から見たら、日整が雲の上の存在のようであり、実態が掴みづらくなっているという。

こうした課題について、「SNSを有効活用して、何をしているのかを訴えかけていく必要があるのではないか」と、情報発信力の強化を強く求める会員も多い。ウェブサイトやSNSによっては日整以外の団体が正しいよ

図１　三者協定

日整所属の柔道整復師は、受領委任にかかわる委任を受けた地方厚生（支）局長及び都道府県知事と全国の公益社団法人の都道府県柔道整復師会（日整）との三者間で行われている協定（三者協定）に基づき、療養費の支給を受けることができる。

うに記載されているのも散見しており、こちらからも積極的に情報公開して、日整の行動への認識不足を解いていくべきであろう。安価な入会料に惹かれ日整以外に入会することは交渉力の低下につながり、柔道整復師自らの首を絞める行為になりかねない。こうした事実を各所に訴え安心感を与える事も肝要であり、ざまざまな施策を用いて入らざるを得ない環境を整備し、また脱会しづらい状況を構築していくべきだとの見解も示された。

## 柔整業界への不信感を払拭して未来へ

また、業界の未来を危惧する声も現場から上がって来ているようだ。国家試験の漏洩事件をきっかけに生じている業界に対する社会変化について、「各所への信頼は崩れており、この事実に対して日整は組織としてどのように責任をとっていくのか」という意見も寄せられた。実際、若手の中には日整に対する不信感も噴出しており、将来に不安を感じている者も少なくないという。

これを受けて、当日参加した日整理事は「業界内外に信頼を築き、第三者委員会などを設立して再発防止に務める。法令遵守してスピード感を持って対応していく予定」と理解を求めた。

図2

### Re:bone について

「Re:bone」(リボーン ※reborn「生まれ変わった」※bone「骨」)とは、日整「組織力強化」の取り組みのひとつとして企画されたもの。若手会員の柔軟な 意見やアイデアを幅広く募り、日整の施策や制度作りに反映させ、未来に繋げて行く仕組み。意見がどう反映されたか、結果を報告する仕組みも今後取り入れていく予定。

## 学術をサポートする環境づくり

こうした問題とは別に、入会者数が伸びないのは学術展開ができていないからだという指摘も上がった。自身も大学の研究室に所属しているという山形県の会員は「柔道整復師の論文投稿が少なく圧倒的にエビデンスも少ない。そのため博士号の取得者も限られている」と現状を報告。この会員によると柔道整復に関する国際論文の投稿はこの10年間で1、2件くらいしかないという。これではエビデンスも少なくなり、柔道整復師の魅力も向上しないだろう。では、こうした現状を打破するには何が必要か。この会員は「日整の中で、倫理審査委員会を設立して、研究者をサポートする体制作りを推奨していくべきだ」というアイデアを提示した。

入会したいと思えるような憧れの団体として認識してもらうには、学術を定型化できる環境整備は必須であろう。この意見に対して、日整としても「継続的な学術支援に協力は惜しまない」という見解を示した。

## 次世代へ繋ぐきっかけとして

会議内で噴出した多種多様なアイデアは、日整が今後進むべき道への示唆に富んでいたようだ。厳しい意見もあったが、それでも過去の活動全てを否定しているわけではない。現在の柔道整復師の権利は日整の先達が政府に働きかけ、交渉を重ねて来た賜物である。こうした事実を正確に発信して認識不足を解いていくことが喫緊の課題であることは間違い無いだろう。

実際、組織力低下により柔道整復療養費は都合のいいように変えられて、数年後には消滅してしまうのではないかと危惧する者も多い。こうした声を取り込みつつ、向き合っていかねばならない課題について、多くの人を巻き込んだ活発な議論がなされ、今後の日整が真の意味で改革されることを切望する。

# 4月の休日当番施術所

| | 前橋 | 伊勢崎佐波 | 桐生みどり | 太田 | 高崎 | | 富岡甘楽 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2日(日) | 橋本接骨院<br>027-285-4874 | 須永接骨院<br>0270-21-7321 | さいとう整骨院<br>0277-43-8574<br>ながや接骨院<br>0277-74-5938 | 須永接骨院<br>0276-48-8008 | 大谷接骨院<br>027-343-7701<br>寺澤接骨院<br>027-322-6303 | 正観寺接骨院<br>027-386-8812 | 阿久津接骨院<br>0274-64-2701 |
| 9日(日) | 荒牧接骨院<br>027-234-9559 | 永井接骨院<br>0270-63-4788 | ほしの接骨院<br>0277-76-7042<br>すわ接骨院<br>0277-46-0901 | タカラ接骨院<br>0276-31-2543 | 石井接骨院<br>027-374-0586<br>中村接骨院<br>027-344-1877 | 勝田接骨院<br>027-360-5830 | 伊藤接骨院<br>0274-63-2354 |
| 16日(日) | しきしま接骨院<br>027-232-0898 | 倉林接骨院<br>0270-32-8212 | 鈴木接骨院<br>0277-46-3741<br>吉田接骨院<br>0277-52-0606 | さいとう接骨院<br>0276-56-8500 | たかぎ接骨院<br>027-371-8066<br>飯島接骨院<br>0274-42-6308 | 渡辺接骨院<br>027-346-8688 | 白十字接骨院<br>0274-67-7564 |
| 23日(日) | 夏目接骨院<br>027-234-2034 | のぶ接骨院<br>0270-61-8283 | 武藤接骨院<br>0277-22-4667<br>アース接骨院<br>0277-51-4276 | 本町接骨院<br>0277-78-8300 | さまた接骨院<br>027-372-2178<br>あおば整骨院<br>027-364-5916 | 栗原接骨院<br>0274-42-0316 | 神戸接骨院<br>0274-67-2389 |
| 29日(土) | ひらい接骨院<br>027-226-0022 | いざわ鍼きゅう接骨院<br>0270-64-1908 | 清水接骨院<br>0277-47-6386<br>なかじま接骨院<br>0277-73-6902 | むぎくら接骨院<br>0276-48-5588 | 鎌塚接骨院<br>027-343-7428<br>大河原接骨院<br>027-352-8505 | たなか接骨院<br>027-372-0590 | 小宮山接骨院<br>0274-64-4850 |
| 30日(日) | 平井接骨院<br>027-265-0008 | 渡辺接骨院<br>0270-24-3493 | 中島鍼灸接骨院仲町<br>0277-43-4117<br>高橋接骨院<br>0277-52-0846 | 増尾接骨院<br>0276-48-7252 | 須藤忍接骨院<br>027-362-5614<br>丸山接骨院<br>027-323-0185 | とみざわ鍼灸接骨院<br>027-373-7377 | 木暮接骨院<br>0274-82-2139 |

2次元コードからも
アクセスできます

休日当番は変更となる場合があります。
詳しくは当会ウェブサイトにて、ご確認をお願い致します。

http://www.sekkotuin.or.jp/kyujitu/index.html

ぐんぱる

ぐんぱる 117 号　2023 年 4 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行）
発行人：原澤研祐　発行・印刷：( 公社 ) 群馬県柔道整復師会　〒 370-0022 前橋市千代田町 1-1-8　☎ 027-234-2323
編集人：関　尚之　編集：(公社 ) 群馬県柔道整復師会広報部　mail gunma@sekkotuin.or.jp　URL http://www.sekkotuin.or.jp/